



第43回全国中学生人権作文コンテスト広島県大会で、尾道市立日比崎中学校生徒の作文が「優秀賞」に選ばれました。

作品を通して、人権について改めて考えてみてください。

『らしさ』の強要がない社会

「女の子なんだから」私はこの言葉が一番嫌いだ。性別で行動が制限されているように感じるからである。

私の祖父母は関西北部に住んでいる。私は祖父母が大好きだ。しかし、その地域では男女差別が根強く残っていると感じる。例えば、食事の際は私は食べたいのに「お肉は男の子にあげて。男の子は大きくなるといから。」と言われた。「女の子なんだから家から通える短大で十分やない?」とか「男の子はお金がかかっていい大学に行って、一人暮らしを経験させてあげないと」などと言われた。私はなぜ?と疑問に思った。父に聞くと「昔からそう言われて育ったからなあ」と言っていたが、広島で育った私には全く分からなかった。

学校では給食は平等に配膳され、完食できたら男女関係なくおかわりじゃんけんに参加できた。授業だって自分の意見を堂々と言えるし、休憩中も体格差はあるけれど、男女問わずサッカーをしている。男子だけ優先などということはない。進学先も同じと思う。学びたいという意欲があれば、女の子でも大学や海外へ進学してもいいと思う。

私は男尊女卑が生まれる背景には、年配の大人の男女にはそれぞれ役割があると思っているところにあると考える。男は外で働きに行き、女は家で家事をするという考え方だ。その考え方が現代の男女差別に繋がっていると思う。

私は人はそれぞれ平等の捉え方が違い、体力も体格も違う男女が全て男女平等になるとは思わない。女尊男卑がいいと思ってるわけでもない。私はただ「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」という自分の価値観を押しつけて、男女の能力を決めて未来をこわさない

でほしい。能力を平等に発揮できる場をつくって自分の手で自分の未来をつくらせてほしい。誰もが自分のしたいことをできる世の中になってほしい。

私の中学校の先生は男性も女性も育児のための休暇をとっている。父の会社の人も休みをとったと聞いた。子供を夫婦二人で育てるとも素晴らしい事が始まったと身近で感じた。

私は将来教師になりたい。その為に大学に行きたいと思っている。そして海外の色々な人と出会うために留学したいと思っている。父も母も私の夢を応援してくれている。教師になったら、自分の得意なことを生かしたことをしたいと思っている。もし結婚したら、産休をとりたく、短い間でもいいから一緒に育てたい。家事もどちらかに押しつけるのではなく、一緒にしたい。そして、職場に復帰したい。私は「女性だから」とあきらめることなく自分のしたいことをして自分の意見を堂々と言っていきたい。

世界では性別により夢を持ってない人がいる。私は誰もが夢をもち叶えられる世の中になってほしい。その為に私達ができることは、ジェンダー平等について理解し、性による先入観をなくすこと、自分の考えを押しつけ自分だけが正しいと思わず、互いに尊重しあうことだと思う。でも一番大切なのは性別で自分自身が夢をあきらめてしまわないことだと思う。これらのことを世界中でできるようになれば、性にとらわれることなく、自分の意見を堂々と言え、夢を叶えられる世界になるのではないかと思う。

☎人権男女共同参画課(☎0848-37-2631)

パブリックコメント募集

尾道市人権啓発推進プランを改定するため次のとおりパブリックコメントを募集します。

対象(次のいずれかに該当する場合)

- 市内に住所・所在地を有する人・団体
- 市内の事業所・学校等に通勤・通学している人
- 市に対する納税義務を有する人・団体
- 改定案に利害関係を有する人・団体等

☎☎722-0041 尾道市防地町26-24 人権男女共同参画課

(☎0848-37-2631・☎0848-37-6631)

✉jinken@city.onomichi.hiroshima.jp

公表期間・意見募集期間 募集中~2月7日(金)必着

公表場所 市HP、市役所1階ロビー、尾道市人権文化センター、因島三庄ふれあいセンター、各支所

意見提出方法 持参(平日8:30~17:15)か郵送、FAX、メールで提出

※意見書の書式は自由(住所・名前の記載は必須)。

参考書式は、市HPからダウンロード可。

意見・市の考え方の公表予定時期 3月上旬